

良いとこ自慢・・・自分の園所が自信をもって誇りに思えるような取組
ここを改善・・・主にこれまでの特定教育・保育施設評価の中で課題・改善点として挙げた内容の取組

<p>教育・保育目標 「心身ともに健全な子ども」 ・自分で考えて自分から進んで行動できる子ども。・豊かな情操と強くてたくましい身体を持った子ども。 ・友だちとお互いに力を合わせて頑張れる子ども。</p>
--

項目	園の現状や取組、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	成果	評価
共通課題	・新型コロナウイルス感染症予防対策について	・職員一人ひとりが感染症に関する知識や情報を持ち必要と考えられる対応等を提案し、取り組み状況について相互の確認をする。	・感染症に対してフローチャート作成確認チェックリスト等で把握する。感染症に対して無理のない衛生管理を職員間で心掛ける。 ・毎朝の検温と視診確認や手洗いの徹底を心掛ける。	・職員の感染症に対する意識付けや毎日、保育・教育を行う上での衛生管理が向上し、その他の感染症などの報告が少なくなった。	・園独自で「園児における新型コロナウイルス感染者の発生に伴う対応について」を作成し、6月に検討会議・回覧研修を実施している。「確認チェックリスト」を作成し、「登園時の確認事項」「室内の注意事項」「園外活動・外遊び等」に分け、マスク着用・視診・体温・手洗い・消毒・換気の徹底・環境等の項目を随時確認して、衛生管理・健康管理が実践できるよう工夫している。今後、職員の意見・提案を取り入れながら、チェックリストをより具体的に見直し、実施状況のチェックを取り入れていくことを予定している。 ・玄関にアルコール消毒を設置して保護者・子どもに手指消毒を習慣づける、表情が見えるようマウスシールドを使用する、プロトクリンアクアで瞬間除菌消臭を行う等、職員の意見・提案を取り入れながら、感染予防対策を継続している。
良いとこ自慢！	(保育内容面) ・子どもたちの考えを活かした遊びを行事に取り入れるなど、主体的な子どもが育つよう、取り組んでいる。 ・自ら素材を選んで、製作、遊びが深まるように工夫を積み重ねて、異年齢活動で互いに刺激しあって遊ぶ様子が見られている。	・子どもたちが主体になって楽しめる保育活動を増やしていく。 ・異年齢活動の中で様々な活動を通して、友だち関係を深め、意欲的に活動していく。	・主体的な活動ができるように、保育教諭が環境構成を整え、主体的に発言できる場を設ける。(クラスミーティング) ・異年齢活動を6人～7人グループの少人数制で行い、一人ひとりが積極的な発言や自己主張ができるようにする。	・子どもたちの発達を理解し、生活に添った言葉かけや援助を行ったり、意図的に環境を構成していくことで、子どもたちが主体的に取り組むようになり、一人ひとりの成長がみられた。 ・少人数制にすることにより、全員が積極的に発言や自己主張が言えるようになり、年長児がリーダーとなってグループをまとめることができていた。	・新型コロナウイルスの感染症対策は、知識や情報共有を大切にしながら進められている。また、餅つきなどの行事の他に、降雪時に「雪遊び」を取り入れたり、今年度話題となった「鬼滅の刃」のはっぴを作ったり、地域の環境や子どもたちの興味・関心を柔軟に取り入れた工夫がされている。 ・保育活動の中に、少人数の異年齢グループを取り入れ、子どもたち一人ひとりが発言したり活動したりし易い場を設けている。これらの活動により、異年齢相互の刺激を図っている。特に、年長児の自覚が生まれ意欲的に活動している姿が見られた。
	(管理・運営面) ・子どもたちが安全かつ普段通りに生活、遊びが出来るように保育環境を整え、メンテナンスをしながら整備にも心掛けている。 ・園での子どもの姿も迅速に保護者に伝える。	・園内の環境構成を職員同士で意見を出し合い、子どもが安全に生活できるようにする。 ・ホームページ・掲示板を利用し子どもたちの園での様子や成長を伝える。	・園児の遊びが広がるように定期的に環境構成の変更や安全に考慮している。 ・保護者の方にわかりやすいように、活動内容は写真付きでエピソードや保育教諭のコメントなども載せて伝える。	・定期的に環境構成を変更することで、子どもたちの遊びが広がり異年齢で遊び、子どもたちの成長につながっている。 ・保護者の方の保育・教育に対する関心が深まり、保育教諭に話しやすい環境作りに成功した。	・子どもの遊ぶ姿や様子から、職員が意見・提案を出し合い、環境構成や気づいたことを検討し、子どもがのびのび遊べるよう遊具の配置を換える等、臨機応変に対応している。また、日頃から安全確認を行うと共に、定期的には月1回安全チェックを行い、危険箇所等があれば園長・主任が迅速に対応し安全管理を行っている。また、活動別にグループ分けを行い、安全に遊べるよう職員の配置を考え見守り・援助を行っている。 ・ホームページの「トピックス」「写真ギャラリー」を活用し、園内・園外の活動の内容や子どもの様子等を、保護者や地域に向けて、写真とコメントでわかりやすく発信している。当日配信することで、親子の会話が弾むようにも工夫されている。玄関にドキュメンテーションを掲示し、行事や活動の様子を写真・コメントで伝え、送迎の保護者から「様子がよくわかる」と好評である。
ここを改善！	(保育内容面) ・職員で考え、負担のない週案にしていたが、見やすく書きやすいように改善していく。	・週案の様式を工夫し、保育教諭が書きやすく振り返りができやすいように工夫する。	・週案の様式を、環境構成・幼児の行動・保育教諭の支援に区分分けをし書きやすく、見やすくした。	・週案の様式を変更することにより、見やすく、振り返りのしやすいよう改善する事が出来た。	・職員自己評価票において、『「早くしなさい」と子どもたちをせかさす言葉や「ダメ」などの制止する言葉を不必要に用いないようにしている』の項目だけが平均2.80ポイントと低かった。この「気づき」(メタ認知)があれば必ず改善されるので、職員の意欲・やる気を生かし、子どもたちの発達に関する理解を深め、さらなる指導力の向上に生かしていただきたい。
	(管理・運営面) ・他のクラスがどのような保育をしているかわからない。 ・感染症が身近な問題だと職員は分かって行動しているが、それを優先しすぎて子どもたちの行動を制限しているように感じる。	・各クラス掲示板を有効活用し伝達事項等、共有できるようにする。 ・今後は感染症対策と園生活の両立を子ども第一で考え、職員同士で考慮していく。	・保育教諭同士で情報交換を行い、保育教諭や園児がわかるように情報共有の掲示板に保育内容や目標を掲示している。 ・行事や保育内容を工夫し、安全に開催できるように話し合い、クッキング保育や行事を中止せずに開催している。	・クラス全体で目標を設定することで、クラス一丸となって目標達成に向けての話や行動に移れ積極的に参加してくれるようになった。 ・行事や保育内容を掲示板やホームページ等で随時、ドキュメンテーションの掲示を行うとともに、子ども達が満足し過ごせるよう、規模を縮小し、運動遊び・クッキング保育・園外保育等を工夫し、実施することができた。	・職員間の情報交換・情報共有は、朝のミーティング、職員会議、各保育室の園だより・行事予定・給食だよりの掲示、「伝言連絡表」「保護者への連絡事項」等により、行われている。ドキュメンテーションの掲示により、他クラスの活動や様子を共有している。現在、クラス毎の今日の保育(内容・時間・場所等)の共有に向け、園独自のホワイトボードの活用方法を検討中である。 ・子どものお店屋さんごっこ・クッキング・餅つき体験等を、少人数制・手洗いの徹底・マスク着用の上で実施し、また、運動遊び・クリスマス会等保護者参加の行事を、事前に感染症対策を伝えて徹底した上で実施する等、感染症対策と園生活の両立ができるよう取り組んでいる。